

製本のススメ

Vol. 32

いつの間にか秋の気配を感じますね。街の花屋さんにはコスモスやススキが並び行楽地では年末年始の予約が始まりました。さあ、後半戦がスタートです！

暑くてのんびりした人は、気を引き締め直して元気良く働きましょう。

今回は**規格外寸法**のお話

規格といえばJISですね、紙の大きさもきちんと決まっています。でも、製本業界の規格サイズに当てはまるかと言えばNO！だと言う事をご存知ですか？

製本機械の多くは、**A4タテからB6ヨコまでの仕上がりサイズを基本対象**に作られています。例えば**A4でも横長本は【規格外】扱いになってしまう**事もあり、困った経験をお持ちの方もいることでしょう。むろん大きいサイズ・小さいサイズ専用の機械もありますが、これらは特殊サイズの扱いで、設備をしている会社も少ないのが現状です。

さて、**変形サイズ**はどうでしょう？例えばリーフレットのように天地寸法は 210 ミリで小口寸法が 100 ミリの場合、**小口寸法がB6の 128 ミリには足りません**。この場合は用紙の余白部分を広く取り、**A5サイズに近い状態にする必要**があり、最終工程の断裁加工で製品のサイズに仕上げていくわけです。

さて、この様な**変形サイズで多く発生するトラブル**の中に、表紙が複数付け合わせで、ドブ3ミリ~5ミリ程度しかない印刷をされてしまう場合があります。これでは1面に表紙を切り分けた際に、**機械可能寸法に対応できない場合も有り、その場合は版から作り直し**をしなければなりません。

用紙の無駄も多く発生する変形サイズは、**見積り段階で加工先の製本会社と詳しく打ち合わせを済ませておけば、失敗の少ない印刷面付けや加工方法**に出会える事ができて、**適切な見積り金額をお客様へ出す事もできる**でしょう。

けっこう万能タイプの井関製本ですが、駄目なときは駄目なので代替策を提案させていただきます。



Tea break

芸術の秋ですね、芸術の聖地といえば上野で、上野といえば西郷さんですがあの姿は愛犬と散歩中でしょうか・・・実は散歩ではなく、うさぎ狩に出かけている所なんですね。よく見ると帯の所に脇差と束ねた紐をはさんでいますこれがウサギを獲る為の罠だそうです。また犬の名は【ツン】と言い薩摩犬で猟犬として優れているようです。

余談ですが、銅像の作者は高村光雲(高村光太郎の父)で、教科書に載るほどの芸術家！西郷さんの銅像はかなりの お宝(?)

by (株) 井関製本